

---

---

# 2009 年度事業報告

---

---

## I. 国際協力、フェアトレード普及・啓発事業

### 1. モザンビーク支援（「Eco & Peace」プロジェクト）

本プロジェクトでは、1. 現地 NGO・CCM(キリスト教協議会)との協働で、武器ゼロゾーンの構築、持続可能なコミュニティ開発を目指す現地での活動と、2. 平和教育、国際理解教育活動、支援物資の輸送など日本国内の支援活動を中心に実施してきた。地域としては、モザンビークマプト州モアンバ郡マレンガーネ地域にある4地域（ボンドイア、ビジランシェア＝モプト、シニャングアニーネ、ワマニャンガ）の住民約4,590人（2009年5月推定）を対象とし、ゴールとして、モザンビークの地域開発財団(FDC)が、ブラジルのデザイナーや日系ブラジル人とともにフェアトレード商品を開発し、地域コミュニティ開発が行われている地域・マシエネをモデルとするものである。2009年度に予定していた事業、実施した事業については、以下の通りである。

#### 【モザンビークにおけるプロジェクト】

##### ① 井戸掘削・補修事業

本事業において、特にニーズの高い井戸の改修・建設と中学校建設のハード面の支援と、住民による井戸メンテナンス技術の等ソフト面での開発支援を行うことを目的としたが立案には至らなかった。その理由としては、現地調査の結果(Manjate Constructionによる調査)、ボンドイア小学校周辺の地域は井戸を建設しても、塩水が出る可能性が非常に高いことが分かった。そのため、水は川から引くことが代案として挙げられ、水道システム構築の調査をHydroAfricaとともに行ったが、全面的に企業が水道システムを建設した場合、住民主体のプロジェクト遂行とはならず、またシステムの性格上、メンテナンスが困難となるため、持続可能性が低いのではないかと指摘を受けており、立案に向けては、コミュニティとの話し合いのもと、水道システム構築方法の詳細、用いる技術、どのように住民の参加を促すか、どのように利益を公平に裨益者が得るかなど、プロジェクト遂行の方向性を更に検討していく必要があると判断したためである。(また、本件は日本大使館からNGO連携無償資金協力での申請とするようにアドバイスを得たため、将来的には、そのスキームでの申請を予定する。)

##### ② 中学校建設事業

中学校建設に関しては、理科室、体育施設等の設備など、建設には政府の定めるさまざまな条件があるので、モザンビーク政府の建設モデルを詳しく調べる必要が有る。その上、中央、地方政府機関(教育省)との調整等、関連団体が複数になるので、中学校建設に関する情報収集と、政府関係者との話し合いを行うなど、立案には時間を要するため、初年度の事業としての実施は困難であると判断した。今後も調査を継続する。

##### ③ 農業支援事業

専門家派遣事業として、農業の専門家を現地に短期で派遣し、現地における農業の可能性と、現地のニーズを調査、それに基づき事業申請の準備を予定した。2010年2月中旬から3月中旬にかけて、無茶々園の小谷達也さんがモザンビークを訪問し、ボンドイア、シャイシャイ、マシエネにおける農業に関する視察を行った。農業プロジェクトの立案には、更なる現地調査、ニーズ把握が必要であるとの意見を得たため、今後も農業専門家を招いての調査、意見交換を行ない、将来的に事業としての立案を検討し

たい。また、農業支援は、モアンバ郡政府も行っているため、政府との連携、並びに農業支援を実施している現地 NGO との連携も行っていく予定である。

#### ④ フェアトレード商品開発・販売事業

足踏みミシンを使って現地で商品開発・製作を行い、販路を開拓して販売し、コミュニティに雇用を創出することを目的とした。ボンドイアにおける縫製トレーニングは、アデリア氏が4月に帰国後、村の女性5名を対象に行っており、コースター、シュシュ、ランチョンマット等を作製し、作品は日本において販売した。しかし、ミシンが故障、アデリア氏がモアンバで就職をしたために、ボンドイアには常にはいられず、そのためトレーニングを定期的に行える講師を欠き、中断してしまった。そのため、アデリア氏がボンドイアに不在でもプロジェクトが遂行できるよう、スーパーバイザーをカリスト先生、シニャンガニーネのエレナ氏にお願いしたいと考えている。また、他の女性のスキルアップを図り、プロジェクトが遂行できるようにする。アデリア氏、アデリア氏の両親、縫製訓練の参加者、コミュニティリーダーと今後の縫製プロジェクトについて方針を話し合う予定である。昨年支援物資として送った2台のミシンについても、どこのコミュニティで誰が活用すべきか議論をすることになっている。

上記の全ての事業の実施は、助成金等で事業予算獲得をして行う予定であったが、支援物資の受取に7ヶ月を要し、また調査のためのプロジェクトサイト地の訪問が車輻がないために頻繁に行えなかったなど、さまざまな要因があり、結果として事業としての申請ができなかったことを特筆しておきたい。2010年度は、事業費の獲得を事業遂行の必須条件とし、そのための事業申請を行っていく。

#### ⑤ モザンビークスタディーツアーの実施

8月には都市化が進む首都マプトの暮らし、インフラが整わない貧困層・村(ボンドイア)の暮らし、フェアトレード開発により住民自治により発展している持続可能な村(マシエネ)の暮らし、の3箇所を比較しながら視察できるESD(持続可能な開発のための教育)スタディーツアーを実施し、当団体の関係者4名(理事・高校教員・国際交流協会関係者・大学生)の参加を得た。

### 【日本におけるプロジェクト】

#### ① 支援物資輸送

放置自転車、ミシン等の物資を7月12日にモザンビークにクレア(自治体国際化協会)の助成金事業の一環として輸送し、コンテナは8月末にマプト港に到着した。しかし、今回初めて支援物資が課税対象となってしまったため、それを不当として政府関係者と交渉し、その解決に長期間を要した。また、モザンビーク関税局の手違いで、3月中旬に当団体の支援物資が危うく競売にかけられそうになるなど、さまざまなトラブルにも見舞われたが、3月18日に物資の引取りが完了した。今回の事態を踏まえ、今後の支援物資輸送に向けてモザンビーク政府との話し合いを続けることとしている。(なお、支援物資は、2010年5月7日にボンドイアにおいて行われたセレモニーにおいて村人たちの手に渡り、生活を改善するために活用されている。)

#### ② 研修生の招へい

2009年度は、松山市と協働して進めるクレア(財団法人自治体国際化協会)の助成事業を通じて研修生1名(ティトシュ・フェルナンド・ユアムス氏)を約1ヶ月間、受け入れた。環境省・文部科学省主催「環境教育リーダー研修」、「第18回全国ボランティアフェスティバル」等への参加、各種学校を訪問し、マシエネのバナナ紙づくりの紹介を通じて実践的ESDとしての考え方・実践方法を学び合ったほか、内子町・和紙づくりの見学を通じて日・モ協働によるフェアトレード商品開発、技術交流の可能性について意見交換を行なった。(詳細は報告書参照)

#### ③ 武器アート展示

以下の日程で展示を行った。

- ・7月26日～8月2日 松山市主催「平和資料展」(於：松山市総合コミュニティセンター1Fプラザ)
- ・9月26～27日 全国ボランティアフェスティバル (於：ひめぎんホール)
- ・10月17～18日 松山市主催「みんなの生活展2009」(於：松山市大街道商店街)
- ・1月23～24日 松山市主催「メッセまつやま2010」(於：アイテムえひめ)

#### ④ 募金箱設置

設置店を100店舗に増やすことを目標とし、新規に8店舗に募金箱を設置し、現在48箇所に募金箱を設置している。

#### ⑤ 支援物資輸送のための街頭募金

12月、1月に学生ボランティア(愛媛大学、新玉小学校、城西中学校の生徒)とともに街頭募金活動を市駅前、大街道にて以下の通り、計2回実施した。

| 日 時       | 参 加 者                                  | 金 額 (円)     |
|-----------|--|-------------|
| 12月27日(日) | 横田、新玉小学校6年生2名、城西中学校1年生7名、愛媛大学生2名(計12名) | 27,483      |
| 1月17日(日)  | 城西中学校1年生6名、高校生1名、愛媛大学生2名(計9名)          | 11,519      |
|           | (延べ人数)21名                              | (合計)39,002円 |

#### ⑥ モザンビーク関係者往来

7月6・7日、ダニエル・アントニオ在日モザンビーク特命全権大使夫妻がフェアトレードカフェ&雑貨 WAKUWAKU のオープニングセレモニーに際して来県し、中村時広松山市長、加藤守行愛媛県知事を表敬訪問し、愛媛県農業試験場を視察した。また新玉小学校を訪問、愛媛大学附属高校にて講演を行った。

#### ⑦ フェアトレード商品開発

マシエネの女性縫製グループの作製した刺繍、バナナ紙、カプラーナを利用した商品開発(ブックカバー、ワンピース、クッションカバー、ランチョンマット、エプロン、浴衣等)や、その刺繍・バナナ紙を利用した学校教材開発を行った。

### 2. フィリピン支援

アガリン・長瀬 KAFIN 代表を2009年度愛媛大学国際協力論で講師として招き、「ミンダナオ島イスラムの現状と生活」について公開講演会を開催した際、意見交換を図った。

また、ミンダナオを訪問した愛媛大学法文学部学生がミンダナオ支援を開始するための調査として当団体の支援経緯等について問合せがあり、支援の難しさや気を付けること等についてアドバイスを行った。

### 3. フェアトレード普及・促進

7月7日にフェアトレードカフェ&雑貨 WAKUWAKU をオープンして以来、カフェを中心としたフェアトレードの理解促進、普及・啓発資料の提供、国際協力・交流に関する質問・相談の対応、ボランティア希望者・取材への対応などを行った。主な内容は以下の通りである。

#### ① カフェ運営

営業時間11時～19時までのサービス提供とそれに関わる準備や調理を行った。日々の売上、釣銭管

理のための売上日報に手書きで記入したものをファイルし、ボランティアスタッフ確保のためのシフト表作成、飲料・雑貨の在庫管理のために在庫管理表を作成して管理した。

## ② イベント企画

ワン・デイ・シェフやえひめグローバルネットワーク関連イベントの企画およびカフェを会議室として活用した。詳細は別紙⑥の通り。

## ③ ボランティアの受け入れ・相談対応

レイアウトから調理補助等、ボランティアに関わってもらった。来店者にはフェアトレードやえひめグローバルネットワークの活動等について随時説明を行い、国際協力・交流に関する質問等に対応した。

## ④ 広報

ショップカード・ポストカード、ブログ (<http://fairtradcafewakuwaku.blog72.fc2.com/>) の作成、店内展示の充実に努めた。また、広くショップを知ってもらうために新聞・雑誌等の取材対応、近隣店・募金箱設置店へショップカードの設置依頼、カフェのイベント情報の発信（MIC・EPIC・SNN・ESD-net・EGN 会員）を行った。

## 5. ハイチ緊急援助

フェアトレードカフェ&雑貨 WAKUWAKU にハイチ支援のための募金箱を 2 月 1 日から 3 月 31 日まで設置し、集まった計 5,412 円を、ピースウィンズジャパンを通じて支援した。

## II. 環境保全事業

### 1. 松山市 A Bicycle Change (ABC) 計画事業

松山市市民活動推進基金から補助を受け、松山市の自転車に関する問題解決、そして自転車を利用しやすい社会を構築するために、私たちが何をしなければならないかを市民・大学生とともに考え、行動パターンの変革を文化としてもたらすことを目的とした事業を行った。愛媛大学学生 3 名を中心として年間を通じて活動を展開した。

9 月 19 日には山崎美緒氏、山田耕平氏を迎え、自転車フォーラム&アクションを開催した。また、自転車に関するアンケート調査の実施、しおりの作成等を行い、11 月 14・15 日の愛媛大学学生祭では、ABC 事業の内容や放置自転車と国際協力の関係等についての展示を行い、一般市民（特に大学生）を対象に、国際協力、環境保全、社会教育を中心とした事業を実施した。（詳細は報告書参照）

### 2. 愛リバーサポーター

愛媛県「愛リバーサポーター制度」に登録しており、護国神社前を流れる大川の清掃を、5 月 17 日と 11 月 28 日に行った。参加者はそれぞれ 50 名、35 名であり、河川の清掃とともに、去年に引き続き水質検査と生き物調査も行った。

5 月の清掃には松山北高校柔道部、清水小学校児童、愛媛大学生など学生の参加が多かった。11 月の清掃には、ボーイスカウト松山第 16 団や徳島県から「正法寺川を考える会」が参加され、四国内における「河川を通じた ESD」の輪を広げる機会となった。

### 3. 平成 21 年度環境教育リーダー研修基礎講座～ワカルとカワル環境教育とナッ得・知っ得 ESD～

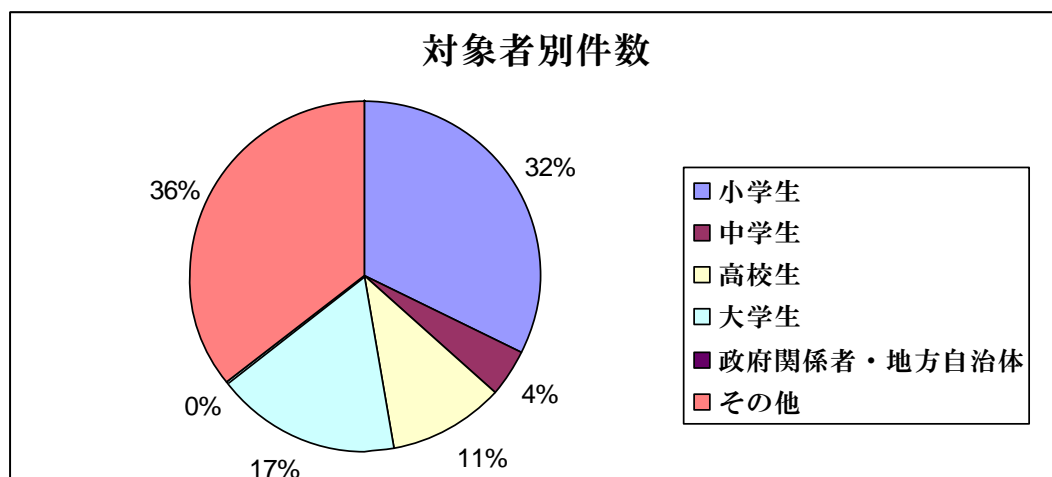
環境省・文部科学省主催事業を受託し、10月7日～9日まで松山市野外活動センターで開催した。基調講演に小林修・愛媛大学国際連携推進機構アジア・アフリカ交流センター准教授、世古一穂・特定非営利活動法人 NPO 研修・情報センター代表理事を迎え、2日目は分科会に分かれてワークショップを開催した。(詳細は報告書参照)

## Ⅲ. 地球市民教育・持続可能な開発のための教育 (ESD) 普及

### ① 講師派遣

総合的学習 (国際理解教育・環境教育・平和教育・人権教育) の講師として、小・中・高校、大学、その他の会合で派遣依頼を受け、別紙①の通り、延べ 93 件 (平均 7.6 回/月) の講演を行った。昨年度の 69 件から 23 件増加しているが、今年度も中学校訪問の機会が少ない。

昨年度作成した「講師派遣依頼申込書」の用紙は、依頼者が講師派遣を申し込む際に必ず記入してもらうこととして活用しており、記録に残すとともに派遣のガイドラインとして依頼者に謝金や交通費など、必要経費について検討していただく上で参考となっている。



謝金額 (対象者別)

| 講師派遣対象者     | 件数        | 謝金合計(円)        | 1件あたりの平均額(円)        |
|-------------|-----------|----------------|---------------------|
| 小学生         | 30        | 129,200        | 4,307               |
| 中学生         | 4         | 66,000         | 16,500              |
| 高校生         | 10        | 87,960         | 8,796               |
| 大学生         | 16        | 136,675        | 8,542               |
| 政府関係者・地方自治体 | 0         | 0              | 0                   |
| その他         | 33        | 317,215        | 9,613               |
| <b>合計</b>   | <b>93</b> | <b>737,050</b> | <b>(全体平均) 8,011</b> |

注：謝金は、資金の提供先ではなく、講師派遣で訪問した機関から受け取ったというように分類している。例えば、平和の語り部事業は松山市から謝金が支払われているが、小学校を訪問している場合は小学校からの謝金としている。愛媛大学 ESD と松山市クリア事業のオープンセミナーは 1 件の講師派遣事業であるが、謝金が松山市と愛媛大学から出ているため、ここでは 2 件として計算した。

## ② 財団法人自治体国際化協会（CLAIR）

4月1日より、財団法人自治体国際化協会（CLAIR）のモデル事業「国際交流・国際協力に基づくESD教材・カリキュラム開発事業」が開始し、主催者の松山市からの委託を受け、パートナー団体として参画した。当事業では、松山市と松山国際交流協会、小・中・高等学校や大学の教育機関、NPOなどが連携し、モザンビークとの国際交流活動を通じて、「途上国の現状を理解し、持続可能な社会づくりに資する教材開発に取組み、自治体とNGOがモザンビークを事例に相互に学び合える仕組みの事例を四国全体・全国発信していくための準備を行った。

## ③ コープ自然派えひめESDチーム

四国単位のESD勉強会（主催：四国EPO）のアレンジのサポートを行った。また、コープ自然派えひめESDチームと共催で下記3件のイベントをフェアトレードカフェ&雑貨WAKUWAKUで開催した。

- ・ 2月24日 有機栽培伊予柑まるごとジャム教室（講師：末澤千泰氏）
- ・ 3月13日 元気な食こそ最高の名医！～いのちを守る料理のお話～（講師：遠藤栄子氏）
- ・ 3月14日 第1回コミュニティ・レストラン～コミレスの役割と可能性～（講師：世古一穂氏）

## ④ 持続可能な開発のための教育の10年推進会議(ESD-J)

また、ESD-Jが発行するESDテキストブック原稿の執筆を行い、テキストブックとして発行された。

# IV. NGO/NPO および地域のネットワーク事業

## 1. 日本・モザンビーク市民友好協会

当団体に事務局を置く「日本・モザンビーク市民友好協会」として、7月に駐日モザンビーク大使館よりダニエル・アントニオ大使夫妻が来県された際に市内視察、挨拶周りができるよう対応を行った。

## 2. 環境省「四国環境パートナーシップオフィス(四国EPO)」

環境省受託事業として、高松において四国環境パートナーシップオフィス運営業務を行った。主な活動は以下の通りである。

### ① 四国4県の連携の確保

#### イ. 拠点団体との連携と情報収集

以下の4団体を拠点団体として選定し、連携や各県での事業等に関して相談等を実施した。

- 徳島県 : とくしま県民環境会議
- 香川県 : NPO法人香川ボランティア・NPOネットワーク
- 愛媛県 : 愛媛県社会福祉協議会
- 高知県 : 環境活動支援センターえこらぼ

各県の拠点団体との連携は、以下のとおりである。

- ・ 県内における環境関連情報の提供
- ・ 四国EPOからの情報の県内発信
- ・ 相談案件の橋渡し
- ・ 環境関連情報の提供

ロ. 四国地域の行政機関及び中間支援組織等との連携と共通の環境課題等についての情報交換  
行政機関、中間支援組織間での情報共有を積極的に行い、以下のような事業を連携して行った。

- ・ 「助成金説明会」徳島の中間支援組織と連携した助成金説明会を開催
- ・ 「E S Dミーティング」の開催（香川で2回、愛媛で1回、高知で3回）

## ② 四国内の消費者や市民団体等による環境保全活動の活性化等の支援

### イ. ホームページの作成と運用

- ・ 情報収集  
自治体、中間支援組織のメールマガジンやホームページ、新聞などから環境に関連した情報を抽出した。
- ・ 情報発信：ホームページ  
ホームページを活用した情報発信を以下の通り行った。
  - イベント、助成金等情報を年間で999件掲載（月平均では約83件）
  - テーマ別の切り口でアクセスできるように、事業別のページを増設
  - ホームページ閲覧者数は、793名/日と、昨年度比379名/日の増加
- ・ 情報発信：メールマガジン  
メールマガジンを月に1度のペースで配信し、3月末現在で計203名（昨年度比45名増加）へ情報発信を行った。
- ・ 情報発信：メールリングリスト  
四国の環境関連情報の共有に特化した、メールリングリストを試験的に開始した。

### ロ. 資料、書籍及び電子情報等の整備、提供

- ・ 資料の県別整理と、資料ボックス（環境教育ボックス、バイオマスボックス、3Rボックス等）の整備
- ・ 四国で発行されている環境関連資料をホームページで公開（3月末158種類）

### ハ. 各種相談への対応

電話、メール、来訪における相談対応を実施し、概要は以下の通りであった。

- ・ 年間合計180件（昨年度154件）
- ・ 相談の主体はNPO（83件）、企業（28件）、行政（22件）、一般（11件）、学校（10件）、メディア（6件）、中間支援（3件）、その他（環境施設、青年会議所等17件）
- ・ 相談対応の基礎データとして、新聞社6社（徳島新聞、四国新聞、愛媛新聞、高知新聞、朝日新聞、日本経済新聞）から環境情報を入手（情報整理数506件）

### ニ. 交流・コーディネート機能の発揮と活動サポート

「量より質」を意識して、丁寧にコーディネート、活動サポートを行うよう心掛けた。

コーディネート例：

- ・ 地球環境基金助成金説明会の開催にあたり、（独）環境再生保全機構に対し、四国ブロックの開催場所の選定や、協働可能なパートナー団体を紹介するなどのサポートを行い、社会福祉法人愛媛県社会福祉協議会が受託
- ・ NPO法人による海底ゴミ回収底曳き網体験学習の実施において、関係者間の連携や情報共有の促進、広報等について協力
- ・ 大学祭のエコイベント化促進サービス「エコ学パッキング」（主催：地球と未来の環境基金）

の内容について意見交換会を開催

- ・ 助成金説明会
- ・ 市民活動団体の環境保全活動の壁となっているもののひとつに「資金不足」があるという現状から、そのサポートについて中間支援組織や事業者と協議を行い、連携による環境助成金説明会を開催

また、以下のつなぐツールの使い分けにより、内容に合わせたサポートを実施した。

- ・ 相談対応（主体間連携を望むところがあれば適切なところを紹介）
- ・ 情報・意見交換の場の提供（レジ袋等共通の課題に対して広域でつながる場合）
- ・ 協働事業の連絡調整サポート（CSR新居浜モデル事業など）
- ・ MLの運営管理（レジ袋・エコ住宅・生物多様性・温暖化防止などテーマ別。参加主体は様々。）
- ・ パートナシップ事例の紹介（HP「四国のすごい」）

### ③ 小中学校等における環境教育及び環境保全活動活性化支援

#### イ. 小中学校等における環境教育及び環境保全活動を活性化のための関係者との連携や情報交換

- ・ 情報提供  
学校からよりも一般やNPO・行政が学校に提供する情報についての問合せが多く、適宜対応した。
- ・ NPOと学校の環境教育マッチングフェア」実施の検討  
香川県教育委員会と共に、「NPOと学校の環境教育マッチングフェア」の可能性について検討した。
- ・ 環境教育の活性化支援モデル調査事業の実施  
平成20年度に実施した松山市の講師派遣制度の調査報告書を作成した。
- ・ 平成21年度環境教育リーダー研修基礎講座（中国四国地区）への協力  
EPOのコーディネートで講師の調整を行い、廃棄物処理と生物多様性のテーマの分科会を実施した。
- ・ 環境教育の活性化支援モデル調査事業、平成21年度環境教育リーダー研修基礎講座を経て抽出されたヒントを元に、「出前講座を成功させる10箇条」の案を作成した。
- ・ 平成21年度中国・四国地区エネルギー教育推進会議へ協力  
同推進会議に参加し、エネルギー教育に関する講師派遣の情報や、作業部会が実施する事業のアイデア提供等を行った。

### ④ 四国内での広域連携活動の積極的展開

#### イ. 四国88カ所遍路道の不法投棄の解消に向けた「癒し道クリーンアップ事業」を踏まえた地域の関連した取組みの支援

- ・ 四国圏広域地方計画協議会による「四国圏広域地方計画」の策定の中で「四国霊場八十八箇所と遍路文化により地域をつなぐプロジェクト」としてお遍路を活用したまちづくり・地域づくりを検討していることから、連携の可能性について働きかけを実施
- ・ 社団法人香川県産業廃棄物協会による、遍路道沿いの不法投棄物の撤去場所の選定について情報提供
- ・ メディアからの不法投棄に関する問合せ対応として、香川のNPOから入手した雲辺寺周辺（観音寺市）の情報を提供

#### ロ. 各種イベントにおける環境に配慮した取組みの支援



- リユース食器

今年度の貸出し件数は44件（昨年度比33件増加）で、概要は以下のとおりであった。

|       | カップ (280ml) | カップ (450ml) | どんぶり  | 平皿    | 計      |
|-------|-------------|-------------|-------|-------|--------|
| H20年度 | 4,630       | 2,040       | 150   | 150   | 6,970  |
| H21年度 | 7,000       | 7,180       | 1,490 | 2,069 | 17,319 |

その他、各県にリユースカップの貸出拠点をつくるための公募内容を検討している。

- モンスターバッシュ 2009（8月 香川県まんのう町）へのサポート  
環境配慮型イベントに関する先進事例などの情報提供や、ごみの分別、リユースカップの使用など具体的に取るためのツール導入のサポート、また、事業者・学生・NPO間のパートナーシップで事業が進められるよう連絡・調整を実施した。
- 情報の収集及び提供  
環境配慮型イベント推進のため、「ライブ・アースまつやま」（5月松山市、主催：ライブ・アースまつやま実行委員会）における、イベント内での取組みやリユースカップの導入状況に関する情報収集や、「エコ学パッキング」（主催：地球と未来の環境基金）作成のため、活用出来そうな四国での取組み情報の提供や紹介を行った。

#### ハ. 地球温暖化防止、レジ袋削減等、広域で取り組む環境保全活動の支援

- 地球温暖化防止（8-①参照）
- レジ袋削減
  - 四国でレジ袋削減に取り組んでいる団体への情報や資料の提供
  - レジ袋削減に関する勉強会やイベントへの講師紹介、問い合わせ対応
  - メーリングリストの運営による情報共有
  - 情報・意見交換会を開催し、四国でレジ袋削減に取り組んでいる団体間で先進事例の共有や共通課題を抽出
- 生物多様性
  - 生物多様性をテーマに活動しているNPOより「COP10に向け、四国の生物多様性に関係している団体や人材のデータベースを作成し、その過程で共通の課題があればそれをCOP10への提言に繋げられないか」という相談を受け、意見交換の開催を検討すると共に、同テーマで活動している団体への呼びかけ等を実施
  - 徳島で開催されたセミナー「生物多様性国内対話（主催：環境省）」への企画のサポートや広報等の支援
  - 高知で開催されたセミナー「四国生きものネットワーク（主催：CBD市民ネット）」への企画のサポートや広報等の支援
  - 四国4県の関連組織による「四国生物多様性ネットワーク」の立上げ支援

### ⑤ CSR・ESDによる環境保全活動の活性化

#### イ. ESDによる環境保全活動の活性化事業

- ESDミーティング（勉強会）の開催

|    |                        |                         |                           |     |
|----|------------------------|-------------------------|---------------------------|-----|
| 香川 | ①子どもたちとともに考えよう 食・環境・平和 | 8月21日（金）<br>10:30～15:00 | コープ自然派オリーブ事務局<br>（香川県高松市） | 35名 |
|    | ②英語で遊ぼう！親子でフードマイレージ    | 3月29日（月）<br>10:30～15:30 | コープ自然派オリーブ事務局<br>（香川県高松市） | 22名 |

|       |                                  |                          |                         |     |
|-------|----------------------------------|--------------------------|-------------------------|-----|
| 高知    | ①こどもたちとともに考えよう 食・環境・平和           | 10月3日(土)<br>10:30~15:00  | 高知市市民活動サポートセンター(高知県高知市) | 34名 |
|       | ②地域づくり×ESD                       | 10月29日(木)<br>10:00~12:30 | 高知市市民活動サポートセンター(高知県高知市) | 21名 |
|       | ③人が育つ・人づくり×ESD                   | 12月5日(土)<br>10:30~15:30  | (株)相愛(高知県高知市)           | 27名 |
| 四国・愛媛 | ESDえひめ連絡会議環境・国際・まちづくり・つながるカギはESD | 12月19日(土)<br>13:00~17:00 | 愛媛県生活文化センター(愛媛県松山市)     | 28名 |

- ・ 「生物多様性保全を軸としたESDのモデル化とCBD/COP10への提言」への協力標記事業の主催者、NPO法人持続可能な開発のための教育の10年推進会議(ESD-J)より、地域事務局の選定について相談があり、四国地域でESD-Jの会員になっている団体間との連絡調整において協力を行い、四国の事例として候補となっている香川県小豆郡豊島での活動のヒアリングとその内容のとりまとめ等をサポート
- ・ メールマガジンやホームページでの情報提供  
ESD勉強会でのネットワークを活かすため、メールマガジンにESD関連情報のコーナーを開設した。また、ホームページのESDコーナーを改訂し、勉強会の様子や四国の取組みを紹介した。

#### ロ. CSRによる環境保全活動の活性化事業

- ・ CSRに基づく環境パートナーシップ事業のマッチングの支援
  - 「衣類の3R」をテーマとした環境パートナーシップ事業の四国広域展開の支援として、昨年度に引き続きメーリングリストの管理・運営による情報共有の場の提供や、四国内での新規参加者の呼びかけを実施
  - 三浦工業株式会社の制服処分に関する、地域と連携したより環境負荷の少ない処理方法についてのアドバイスやマッチング
  - 自治体が取組む放置自転車問題に関する情報交換・意見交換を行い、自治体、NPOの協働事例等について情報提供を実施
  - 「自転車の3R」のサポートとしての自転車に関する調査及び、放置自転車廃棄処分時に排出されるCO2量の計算式の検討
- ・ 環境省による調査事例のフォローアップ  
NPOと企業のパートナーシップによるCSR事例調査(H19年度)の、その後の状況調査等を行った。
- ・ CSRセミナー「衣類のゆくえを知るバス研修第二弾」の実施  
日 時： 3月26日(金) 8:30~16:00  
場 所： 視察先 (有)田代商店、意見交換会 観音寺市中央公民館(香川県観音寺市)  
主 催： 衣サイクル研究会、四国EPO  
共 催： (有)田代商店  
参加者： 34名

#### ⑥ NPO/NGO、企業等の政策提言能力の向上

- イ. 地域の環境保全活動の取組み推進を目的とした、政策提言能力向上のための場づくり
- ・ 政策提言に関する勉強会の開催(主催：四国EPO)

- 政策提言勉強会『～参加と協働のデザイン～新しい公共の創出に向けて 中間支援団体の社会的役割と「協働コーディネーター」の必要性～』

日 時：平成 21 年 5 月 14 日（木）10:30～12:30

場 所：四国EPO

講 師：世古一穂氏（金沢大学大学院人間社会環境研究科教授、特定非営利活動法人NPO研修・情報センター代表理事）

参加者：29 名

内 容：ボランティア活動とNPOの違いについての説明から始まり、新しい公共の概念、真の協働についての講義と質疑応答が行われた。また、徳島の政策提言の事例を検討し、実際に政策提言活動を行っていく上で必要な視点やノウハウを学んだ。

- 政策提言づくりワークショップ

日 時：10 月 5 日（月）13:00～16:00

場 所：愛媛県総合社会福祉会館（愛媛県松山市）

参加者：20 名

内 容：講師の特定非営利活動法人NPO研修情報センターの世古一穂代表理事より、政策提言の基本や世古氏が効果的と考える提言例について説明があった。また、昨年環境省の政策提言に応募した徳島のNPOの事例紹介（「地域環境再生プロジェクト・限界集落からの脱却」）を元に、アイデアを政策提言に変えて行く考え方を学び、最後に参加者からの政策提言アイデアの発表や意見交換が行われた。

- ・ 情報収集・提供

- 政策提言づくりワークショップで紹介された参考情報として、横浜市のホームページより協働契約のあり方に関する情報を入手し、勉強会参加者や関係機関に提供
- 第9回 NGO/NPO・企業の環境政策提言の募集に関する情報提供
- 四国EPOのホームページに政策提言のコーナーを開設

## ⑦ 事業型環境NPO、社会的企業の間接支援スキーム事業の実施

### イ. 地域の環境課題に事業型の取組みを行うNPOや企業に対する中間的な支援

- ・ 平成 21 年 5 月 1 日、地域事務局として「事業型環境 NPO・社会的企業中間支援 四国事務局」を立ち上げ
- ・ 「地域の環境課題に事業型の取組みを行う NPO や企業」の実態やニーズ等の把握や、人材、資金、情報などの需要と供給のコーディネートを行うネットワーク構築のために約 400 名との接触を行い、「地域の環境課題に事業型の取組みを行う NPO や企業」として 32 件をリストアップし、支援ネットワークとして 280 名の名簿を作成
- ・ リストアップ先のうち、主として取組み意欲で選択した 15 件との接触を積極的に行い、実態やニーズ等の把握や、人材、資金、情報などの需要と供給のコーディネートを実施
- ・ ブログ「環境を『仕事』にする-四国の環境社会起業を応援します!」、および Twitter「環境社会起業支援四国事務局 @4epo\_entre」を立ち上げ、情報発信とネット上でのソーシャル・ネットワークづくりを実施（ブログアクセス総数 4,369 件、Twitter フォロワー数 503 件）
- ・ 「低炭素社会を担う事業型環境 NPO 又は社会的企業の間接支援活動の実証事業」の募集にあたって、訪問による告知を実施（応募件数 12 件）
- ・ 「低炭素社会を担う事業型環境 NPO 又は社会的企業の間接支援活動の実証事業」に採択された 2 団体に対して事業計画の策定を支援し、事業結果報告会（3 月 18 日「環境ソーシャルビジネス支援ミーティング（事業型環境 NPO・社会的企業モデル実証事業連絡会議）報告会」）に

同行し、愛媛県松山市にて事業計画発表会（3月28日「環境ソーシャルビジネス x ESD」）を開催

### ⑧ 地域における温暖化防止対策推進の取組み

#### イ. 関係機関と連携した温暖化防止対策の取組み

- ・ 四国地域エネルギー・温暖化対策推進会議への参画
- ・ 四国地域エネルギー・温暖化対策推進会議の作業部会の構成員として参画し、作業部会開催の調整等の協力を実施
- ・ 同作業部会メンバーのメーリングリストの整備
- ・ 参画する各県の地球温暖化防止活動推進センターとのアイデア共有や課題解決のための意見交換への参加
- ・ 地球温暖化防止に関する情報収集及びホームページでの情報発信
- ・ 地球温暖化防止のイベントにおける、講師の紹介や取組み事例の情報提供
- ・ 地球温暖化防止関連の資料やパネルの貸出し等を実施

### ⑨ オフィスの運営管理

#### オフィス及び備品の適正な管理

仕様書に基づき適切に運営を実施し、来客対応も適切に行った。

### ⑩ 運営委員会の開催

四国EPO運営委員会を2回（5月、3月）に開催し、運営方法等の検討を行った。

## 3. 四国 NGO ネットワーク (SNN) 関連事業

SNN事務局として、会員・HP・会計管理など全般を行い、毎週メルマガ配信を行った。JICA 四国委託事業の愛媛大学、徳島大学、香川大学、高知大学「四国・国際協力論」を実施した。（主催：SNN・JICA 四国・4大学）。また、第11・12回四国NGO研修、四国NGOネットワーク総会、JICA 四国・四国NGOネットワーク共催の会議「NGO ラウンドテーブル」に参加した。

## 4. 愛媛新聞社カルチャースクール

愛媛新聞とアフリカ・モザンビークについて紹介する料理教室を毎月開催、合計29名、1回平均2.4名が参加した。

※その他、他団体セミナー等への参加、イベント開催協力などは別紙②を参照のこと。

## V. 情報提供・相談業務事業

### ① NGO 相談員

外務省の委嘱を受け、2009年5月1日より2010年3月末までNGO相談員としての相談業務に応じた。毎月報告書を提出し、出張サービスを4回実施した。相談件数は、合計538件、月平均44件で、昨年の月平均38件から増加した。また、第1回（東京）、第2回（岡山）「NGO相談員連絡会議」に出席した。年次報告のデータは別紙③を参照のこと。

## VI. 管理運営等

### ① 理事体制

理事・顧問・監事が東京、香川、静岡、愛媛（松山・西条）に在住であることから理事メールを活用し、意見交換を図った。10月5日、2010年3月9日に理事会を開催し、事業内容および組織運営に関する意見交換を図った。2009年度の理事体制は以下の通り。

| 役 職  | 氏 名       |
|------|-----------|
| 代表理事 | 竹 内 よ し 子 |
| 理 事  | 岡 田 奈 知   |
|      | 小 林 芽 里   |
|      | 世 古 一 穂   |
|      | 藤 山 健     |
|      | 松 本 啓 文   |
|      | 深 井 浩 枝   |
|      | 石 丸 裕 司   |
| 監 事  | 鈴 木 靖 彦   |
|      | 萩 森 一 路   |
| 顧 問  | 藤 本 豊 實   |
|      | 矢 野 玄     |

役員総数：12名（理事：8名 監事：2名 顧問：2名）

### ② 成果物

当団体が製作した成果物については、以下の通り。

| 発行／完成月              | 名 称  | 事 業 名      |
|---------------------|--|------------|
| 2008年4月～<br>2009年3月 | WAKUWAKU News Letter（日本語版／英語版／ポルトガル語版） 毎月の発行を原則とし、9・10月号、2010年1・2月、3・4月号については、2ヶ月分の合併号とした。 | 広報         |
| 10月                 | ESD まんがしおり   | クレア事業      |
| 1月                  | 環境教育リーダー研修 報告書   | 環境教育リーダー研修 |
| 2月                  | クレア報告書   | クレア事業      |
|                     | ABC しおり  | ABC 事業     |
| 3月                  | CGP 報告書  | CGP シンポジウム |
|                     | ABC 報告書  | ABC 事業     |

### ③ 広報

会報を毎月発行した。9・10月号、2010年1・2月、3・4月号については、2ヶ月分の合併号と

した。また、岡田奈知氏による英訳会報を国内外の外国人関係者に配布し、ベネット氏によるポルトガル語訳会報を現地関係者に配布した。ホームページ、カフェ・ブログ、モザンビーク・ブログについては、随時更新した。

また、各種メディアの取材に応じ、新聞・テレビにおいて EGN の活動を広く紹介し、NGO 活動への理解や参加促進を図った。

#### ④ 当団体活動紹介・掲載

他団体および個人による当団体の活動紹介・掲載については、別紙④の通り。

#### ⑤ 受賞、表彰

##### 表彰

平成 21 年度外務大臣表彰を受けた。

##### 感謝状授与

感謝状を竹内洋一氏に贈呈した。

以上